

二柱の天照大神と饒速日尊

出雲朝廷杵築宮と綾部桶伏山、大神神社に現る三柱の神

本当の神はキリストの神

神素盞鳴尊（大神）だった！（中編一五）

大阪中央分苑 出口 恒

全てを統治した出雲朝廷

『神の国』誌二〇一〇年七月号で、私は「浮かび上がる近畿五芒星と素戔鳴尊」をテーマとして取り上げました。ソロモンの

大神都。そして『霊界物語』では太古の高天原の地です。平城京から富士山と同距離の出雲大社を考えたとき、出雲朝廷という考えが浮かびました。

の星五芒星の中心は奈良平城京、その上の五芒星の交点が平安京、下の交点が飛鳥京。そして伊弉諾神宮と平城京を結んだ線の延長線上に富士山。富士山は秦の徐福伝説の蓬莱の国に関連する、富士古文書に記載の、亀岡の桑田の宮と並ぶ日本の二

十三世紀の巨大神殿跡と見られる遺構が発見されました。平安時代の名所案内である『口遊』には、出雲大社の高さが、高さ四七メートルの東大寺大仏殿を上回ると記述されています。往古には三十二丈（九六メートル



図一 レイラインハンティング
「聖地を結ぶ不思議な道を通る」内田一成氏CDより

ル）あったと伝えられます。出雲大社の建設は、六五九年、出雲国造に命じてなされまし
た（『日本書紀』）。
出口王仁三郎聖師は出雲朝廷が全てを統治していたと述べて



図二
大林組が推定し復元した出雲大社の想像図

います。

神典に言う葦原の国とは、スエズ運河以東の亜細亞大陸を言うのである。ゆえにその神典の意味から言い、また太古の歴史から云えば日本国である。三韓のことを「根の堅洲国」とも言ふ。新羅、高麗、百濟、ミマナ等のことであるが、これには今の蒙古あたりは全部包含されていたのである。

また出雲の国に出雲朝廷とい

うものがあつて、すべてを統治されておつたのである。一体この亜細亞即ち葦原は伊邪那美尊様が領有されていたのであつて、黄泉国と言つのは、印度、支那、トルキスタン、太平洋中の「ム」国等の全部を総称していた。それが伊邪那美尊様がかくれ給うたのち素盞鳴尊様が継承されたのであつたので、その後は亜細亞は素盞鳴尊様のしるし召し給う国となつたのである（「亜細亞大陸と素尊の御職掌」『神の国』）。

出雲朝廷の最高神、素盞鳴尊がアジア全てを統括されていた。その統括の地の一つが出雲であるならば、高さ九六メートルの杵築宮は相応だと思いま

す。近畿五芒星と出雲大社、富

士山は素盞鳴尊に閑連が深く、玉前神社、寒川神社とも神紋は素盞鳴尊の神紋三つ巴。出雲大社の最高神は本来素盞鳴尊です。出雲朝廷と素盞鳴尊を念頭におけば、五芒星と富士、出雲杵築宮などを結ぶ庄大な絵図に解が見いだせるかもしれません。

八咫鏡と大物主神

最も尊い神なる熊野大神櫛御氣野命（素盞鳴尊）と、この国土を開拓し治められた大穴持命（大國主命）と、二柱の神を始めと致しまして……その時

大穴持命の申し上げられますには、皇御孫命のお鎮まり遊ばされますこの国は大倭国でありますと申されて御自分の和魂を

八咫鏡に御霊代とより憑かせ

て倭の大物主なる櫛巖玉命と御名を唱えて大御和の社に鎮めさせ……「出雲国造神賀詞」

「出雲大社松山分祠」HPより
大國主命が、御自分の和魂を八咫鏡に御霊代とより憑かせて」としています。大國主という名前は固有名詞ではなく、國王を意味する普通名詞。八咫鏡は三種の神器ですから、自分の和魂、幸御魂と奇御魂）、大物主神を皇位継承の印、八咫鏡に憑かせる……これは大物主神、別名饒速日尊が皇祖神であることを示していることと思ひます。

媛踏鞞五十鈴媛命と

出雲の製鉄

出雲国造神賀詞にあるよう

に、出雲の最高神は素盞鳴尊すきのをのみこと

であり、その御子神、大国主命

(大穴持命)が自身の和魂を大

和の大物主なる櫛巖玉命と御名

を唱えて大御和の社に鎮めた。

現在の桜井市にある大神神社で

す。大和に神武天皇より最初に

入ったのは、饒速日尊にぎはやひのみことです。

神武天皇の妻神が物部の祖、饒

速日尊の伊須気依姫いすけよりひめであり、大

和朝廷初代皇后として二代綏靖すいせい

天皇を産みます。出雲神大物主

の御子が媛踏鞮五十鈴媛命、別

名伊須気依姫で、後に神武天皇

の後のちとなります。大物主と饒速

日はこのことから同神であるこ

とがわかります。女系の皇祖神

でしょうか。

現在のトルコ共和国にあつた

ヒツタイト 紀元前十七〜十二

世紀)が鉄を作つて繁栄したこ

とが知られており、紀元前十七

世紀の製鉄炉と鉱滓が出土して

います。太古のエルサレムはト

ルコのエルズルムであつたこと

を考えると、エルズルムの繁栄

には鉄が寄与した可能性があり

ます。名前の類似から、ヒツタ

イトが『旧約聖書』のヘテ人の

ことで、秦氏ハタではないかと考え

る研究者もいます。

「タタラ」とは、製鉄反応に必

要な空気を送りこむ送風装置の

鞴くわい。皇后の出身氏族が、出雲と

深い関係があつた。その製鉄技

術が出雲朝廷の根幹技術となつ

たのでしょうか。出雲は古代か

ら鉄の産地として有名であり、

銅器についても鉄器以上に出土

しています。出雲は大陸に近く、

太古は機内よりむしろ交通の要

衝であつたのでしよう。たたら

の名前を持つ姫を神武天皇が妻

にしたことは、大和朝廷成立の

当初から出雲神である饒速日

尊・大物主神の影響を抱え込ん

だことを示します。饒速日と神

武天皇の関係は、二〇一〇年一

月号をご参照ください。私は出

雲朝廷の拠点となつたであろう

杵築の宮を調べる中で王仁三郎

聖師の次の歌に気が付きました。

杵築の宮(出雲大社)に

現れた三体の神

杵築の宮(出雲大社)に現れ

ませる 大国主や大物主 医薬

の術と禁厭まじないの道に幸はひ玉ふて

ふ 少名彦那すくなひこなの神御魂 四ツ尾

の御山本宮の 桶伏山に鎮まり

し 世の大本の大御神「序歌」

『靈界物語』十四卷一章)。

『靈界物語』では、大国主や大

物主、少名彦那は綾部の桶伏山

に現れた世の大本の大御神とし

ています。それでは、桶伏山本

宮山)に静まりし神とはどの神

を示すのでしょうか。

神素盞鳴尊の聖霊、万有愛護

の為め大八洲彦命と顕現し、更

に化生して釈迦如来しゃかにょらいと成り、印

度に降臨し、再び昇天してその

聖霊もうこうあんれい蒙古興安嶺くたに降り、瑞霊化

生の肉体に宿り、地教山に於て

仏果を修了し、蜻州せいしゅう出生の肉

体を藉りて、高熊山に現はれ、

衆生を救ふ。時に年齒將に二十

有八歳なり。二十九歳の秋九月

八日更に聖地桶伏山ひつじまのこに 坤 金

神豊国主命と現はれ、天教山に

修して観世音菩薩木花姫命と現
じ、五拾貳歳を以て伊都能売御
魂 弥勒最勝妙如来)となり、普
く衆生済度の為め更に蒙古に降
り、活仏として、万有愛護の誓
願を成就し、五六七の神世を建
設す。

南無弥勒最勝妙如来謹請再拝

○

瑞靈貳拾八歳にして成道し、
日州靈鷲山に顕現し、三拾歳
にして弥仙山に再臨し、三十三
相木花咲耶姫と現じ、天教山の
秀靈と現じ最勝妙如来として、
五拾貳歳円山にて苦集滅道を説
き道法礼節を開示す。教章將に
三千三百三十三章也。五拾四歳
仏縁最も深き蒙古に顕現し、現
代仏法の邪曲を正し、真正の
仏教を樹立し、一切の衆生をし

て天国浄土に安住せしむ、阿難
尊者アーナンダ)、其他の仏弟
子の精靈随従す。將に五六七
の祥代完成万民和楽の大本なり
〔「聖雄と英雄」 靈界物語〕 入
蒙記)。

前者は、神素蓋鳴尊の聖靈の
神の履歴であり、聖地桶伏山に
坤金神豊国主命と現はれ」と明
記してあります。瑞靈の系譜では、
桶伏山の別名円山に「苦集滅道
を説き道法礼節を開示す」と記
されています。大国主や大物主、
少名彦那は世の大本大御神とし
ての神素蓋鳴尊の聖靈 瑞靈)の
顕現だったのです。そして、神素
蓋鳴尊と出口聖師の履歴の比較
から、その両者は本質的に同じ
であることがわかります。

杵築の宮の歌から、大国主や

大物主、少名彦那の神が杵築の
宮に現われた出雲神であること
を示しています。その神は綾部
本宮の桶伏山に鎮まります。こ
こは豊受大神を最初に祭った地
でもありますが、文脈上、桶伏
山に現われた神は素蓋鳴尊。少
名彦那は素蓋鳴尊の幸御魂とさ
れており、大国主命は素蓋鳴尊

の御子神。大物主は日本書紀の
記載では、大国主命の奇御魂、
幸御魂。素蓋鳴尊は海原 世界
地上)の統治者でしたから、そ
の意味で大国主命です。

大国主と大物主、少名彦那
は、医業の術と禁厭の道に幸い
していました。出雲神ともされ
る素蓋鳴尊は江戸時代までの神
仏習合の時代、本地仏が薬師如
来とされていたように医業の術

の神。十種の神宝を持つ、大物
主神とされる饒速日尊の布瑠の
言とは「ひふみ祓詞」「ひふみ
神言」ともいい、死者蘇生の言
霊といわれています。大国主は
因幡の白兔の傷を癒しました
ね。皆、癒し主でもあります。

皇室の秘術

切り紙神示と数表

なお『靈界物語』では、天岩
戸開きの時に岩戸の前で天児屋
命とともに祈禱した三葉彦の
改名、太玉命 は出口聖師の精
霊です。そして皇室に連綿と伝
わる禁厭の最高秘術、太平洋戦
争を予言した切り紙神示は、孝
明天皇から旭形亀太郎を経て、
孝明天皇の意図どおり、皇紀二
千六百年に「ス・◎」の拇印を

持つ太玉命の顕現、出口王仁三

顯国玉の宮の司となし給ふ。

郎聖師、そして時を経て出口和

癒し主イエス・キリスト

明に伝えられました。和明に伝
えられた秘術をいつか公開した
いと思います。孝明天皇から伝
えられたもう一つの秘術は、数
表」であり、公開の時期を待つ

コーカス山の顯国宮は飯成
の宮、いなりの宮で、稲荷の語
源となったところ。ここが発火
点で天照大御神の岩戸隠れが始
まりました。記紀にも掲載され
ていないことですが、またお話
できればと思います。医業の術
と禁厭の道に通じた聖者がもう
一人いました。イエス・キリス
トです。

日米開戦の前夜を予言した皇紀
二千六百年、西暦千九百四十
年、太平洋戦争の前年、平安神
宮に合祀されました。その時、
聖師は獄中でした。

富田 イエズスと云う意味は救
いを齎す人、クリストは油を
注がれるもの、即ち現界を如
実に救うという訳でありま
す。そしてあの二千年前のナ
ザレの村のイエズス様は現界
を救う王者ではなかった。イ

瑞の御霊の三葉彦、神の教を
広道別の、三五教の宣伝使、太
玉の命と名を変へて、栄え芽出
度き松代姫、妹背の道をむすば
せつ、天津御神や国津神、八百
万ます神たちに、太玉串をたて
まつる、卜部の神と任けたまひ、

スラエルの民が待ちに待った
メシヤの予言を成就してはく
れなかったのです。もつとも
これは使命が違うのですから
無理ありませんけれど。そ
してクリストという名を冠す
る以上はその前にあらゆる国
の民がひざまずき拝礼を捧げ
ねばならないのです。これで
みると、あのイエズス様は、
あのイエズスの名を冠せる事
は出来ても、クリストという
事は出来ない訳です。ですか
ら、今度、本当にイエズス・
クリストの名を冠する事の出
来る人が現れるだろうと、私
は思っております」

出口氏 そうや、イエズスは本
当のクリストの命を受けてた
だけや。本当のクリストやな

いけれども、名をもって代名
者として出たんやな、ワシは
そう解している。それからイ
エスという言葉はこれは癒す
(イヤス)という事になる。精
神的な病も肉体的な病も癒す
という事になる。それから
シヤカ(釈迦)という事はサ
カという事になるやろ、サカ
という事は酒という事にな
る。茨の冠というけれどもあ
れは葡萄や、そして外国では
酒はみな葡萄で造ったもんや
での、日本は米で造るけれど
も。そして【サカ】は【サケ】
という事で今でも【サカモ
リ】というえ 笑声)。【シヤカ】
というが【シヤ】は言霊の霊
返しで【サ】である。【イエ
ス】、【ヤッコス】はみな薬と

いう意味にもなる、酒は百薬の長である。イエスも酒の別名である。ヤッコスも酒という事に言霊学から云うとなる。それでお神酒あがらぬ神はないのや。宗教は阿片なりとマルクスが云つたそうだが

自分は宗教は酒なりといつておいたのや」「出口王仁三郎氏を囲む座談会(二)」「昭和青年」。

元々めぐり京都の訪問地のひとつは大酒神社でしたね。さて、『霊界物語』の文中でイエス・キリストとして現れるのは、少彦名命すくなひこなのみことです。少彦名命(司)は、幽界を遍歴し、天地に上下し、天津神の命を受けユダヤに降誕し、天国の福音を地上に宣伝しました。素盞鳴尊の幸

御魂であり、少彦名神(言霊別命)がイエス・キリストとしてユダヤに降誕して天国の福音を宣伝したのです。少彦名命は、言霊別尊ことたまわけのみことから少彦名命、そして言依別命ことよりわけのみことと名を変えています。

『神の国』誌二〇一〇年六月号は、黄金のマナの壘、黄金の釜かまと黄金の玉の行方を記載しました。黄金の玉と黄金の釜は、綾部の桶伏山に隠されるのですが、黄金の玉は最終的に、穴太あなお高熊山の岩窟で発見されました。そして黄金の玉を秘匿したのが、イエス・キリストである少彦名神の改名後の名前を持つ言依別命なのです。「言依別命は峰を伝い足早に姿を隠した。黄金の玉は高熊山

の霊山に埋蔵され、ミロク出現の世を待たれたのである。その時の証として三葉躑躅みつはつじを植えて置いた。三個の宝玉世に出でて光り輝くその活動を、三つの御魂の出現とも云ふのである。再臨のキリスト、ミロクの再

生は此の婆アさまだと言つて、守宮別さまが固く固く主張しておりました。余程あの連中さまは変つて居りますなア」「再転『霊界物語』六十四卷上巻二十七章)。

我はキリストの再来にあらず
本当のキリストとは誰か
再臨のキリストとはミロクの再生とされています。イエスの後身、言依別命は、黄金の玉の威霊から顕れる出口王仁三郎聖

師を本当のキリスト、ミロクの再生としてその出現を待たれたのです。では本当のキリストとは誰か。

「あなたは桶伏山の聖地から来たと仰せられましたが、私も一度ルートバハーの本山に参拝致し教主に直接お目にかかり、言霊閣に於てお世話になった事がございます」「再転『霊界物語』六十四卷上巻」。

再臨のキリストは桶伏山から来たルートバハー(大本)の教主。図三は聖師作イエス・キリ



図三 聖師作
イエス・キリストの画

ストの画。

「いかにも救世主を現はしたこのパレスチナの聖地は偉大です。

いな莊嚴味が津々として湧くよ

うです。再臨のキリストを出し

た綾の聖地もまた、偉大といは

ねばなりませんわ」(「自動車」

『靈界物語』六十四卷上巻八章)。

すでに「聖雄と英雄」靈界物

語』「入蒙記」で見ましたよう

に、素盞鳴尊は桶伏山に出現

し、出口王仁三郎聖師は、五二

歳、円山(桶伏山)にて苦集滅

道を説きました。本当のキリス

トとは、素盞鳴尊であり、出口

聖師であつたのです。

「妾^{わらわ}だつてキリストの再臨を

待つているのですよ。しかしな

がら自分の心を満して呉れる愛

情の深い方があれば、その方

そ妾に對して本当のキリストで

御座いますわ」(「天消地滅」靈

界物語』六十四卷上巻一六章)。

紀元千年のひらきあり。キリ

ストの神が本当の神である

(「紀元」『新月の光』下巻)。

深い眞実を突いています。救

世主は個々人を救う救い主では

ない。宇宙、地球、世界、靈界

全体を救う救い主、理想宇宙へ

の生成化育を図ることを目的に

している救い主。世界を破壊す

るその場合の救世主とは、テル

ブソンの刃^{やいば}を出す悪魔に人々に

は見えるかもしれない。しかし

永遠に生命は存在する。現界の

乱れがそのまま死後の世界、天

国・地獄に反映する相応の理、

現界が天国・地獄と合わせ鏡で

あることを考えると、世界を救

うことがそのまま、宇宙や地

球、すべての万物を根本的に救

うことになる……。

「人あり、我を^{もく}目してキリス

トの再来なりと云ふ。我が弟子

達、また我を見てキリストの再

来なりと信じ、そを我が為めに

名譽なりとさえ考へ、『バイブ

ル』を引證して力説するものあ

り、はなはだ有難迷惑の次第で

ある。彼キリストは、ヨハネに

よつて、彼は火をもつて洗礼を

施す」と予言されながら、遂^{つい}に

火の洗礼を施すに至らずして帰^き

幽^ゆせり。彼の事業は未完成のま

ま、悪魔の妨害によつて中絶せ

しにあらざや。我の来れるは神

業完成のためなり、火をもつて

洗礼を施さんがためなり。世界

くまなく神の福音を宣べ伝えん

がためなり。しかし我は已に既

に、全世界に向つて火の洗礼を

施しつつあるは、我が信徒等の

日夜親しく目撃する所に非ず

や。わずかに小亜細亜^{あじあ}の一部

に水の洗礼を施したキリストを

もつて我に擬^ぎし、榮譽を感じつ

つあるいとも小さき心の持主等

よ、今些し偉大なる志をもつて

我に従へ」(「我はキリストの再

来に非ず」『神の国』)。

素盞鳴尊の顕現である出口王

仁三郎聖師は、再臨のキリスト

ではなく、イエスズに命を下し

た本当のキリストだつた。イエ

スズは代名者に過ぎなかつた。

人間に過ぎなかつた。キリスト

の神 神素盞鳴尊(大神)が本

当の神であつた。

(九月号に続く)